

平成 30 年度第 2 回評価委員会結果の概要

1. 委員会の概要

第 1 回委員会（平成 30 年 6 月 15 日開催）にて、これまでの活動を振り返り、今後の委員会のあり方についての意見交換を実施した結果を踏まえ、水みらい広島にて策定された平成 31 年度以降の第三者評価委員会活動の方針案について、第 2 回委員会での活動方針を決定した。

なお、平成 30 年度の評価については従来どおり実施する。

2. 委員会の基本方針

- ① 水みらい広島が主体となり運営する
- ② 第三者評価委員会のみ年 2 回開催とする
- ③ 年 2 回の第三者評価委員会は次の運用とする
 - ・ 第 1 回（7 月開催）当期方針と運営状況の確認
 - ・ 第 2 回（翌年 1 月頃開催）評価報告会
- ④ 評価委員は 4 月に委嘱し、その任期を 5 月 1 日～翌年 3 月 31 日とする
- ⑤ 第三者委員会の事務局は水みらい広島が務め、委員会での進行役とする
- ⑥ 水みらい広島への追加ヒアリングやワークショップは、必要に応じて検討する
- ⑦ 第 2 回評価委員会開催後に評価報告書を取まとめて公開する
- ⑧ 第三者評価委員会活動の基本方針は、概ね 5 年を目途に見直しを図る
- ⑨ 第三者評価委員会において次の 2 テーマの推進に向けてアドバイスを受ける
 - ・ 人材育成
 - ・ 広報活動

3. 平成 30 年度評価結果

評価項目	評価する視点	評価意見
基本的項目	水道の本来の役割としての水みらい広島のやるべき事、発注者（行政側出資団体）に求められていることを尊重し、理解した上で、その実現を目指しているかどうか。	発注者（行政側出資団体）が進めている広域化の方向性に則り、発注者（行政側出資団体）との協力体制を継続している。 平成 30 年 7 月豪雨災害においても、発注者（行政側出資団体）と連携し、的確な対応を実行できている
水道の品質	水道の品質が、要求された水準を満たしているかどうかの確認を、発注者（行政側出資団体）の実施する「指定管理業務のモニタリング結果」から確認する。	発注者（行政側出資団体）のモニタリングが行われ、いずれの事業もすべての項目で良好との評価を得ている。 品質向上（水みらい広島の独自取組みに対する評価項目）の取組みとして、7 月豪雨災害に伴う被災施設の仮復旧等の応援派遣が評価されている。
経営	経営戦略が策定され、これが経営にあたって指針の役割を果たしているか	策定した中期経営計画を踏まえ今期の経営計画が策定されており、社長自らが全職員に対して本計画の説明を実施し、その計画に基づき、種々の施策が実行されている。
	水道事業の持続のための広域化の受け皿として受託拡大のための活動は継続的に実施されているか	A 市の既存案件の指定管理移行の準備及び B 市の新規案件への営業活動を進めている。 また、民間側出資団体グループより事業移管した配水池ロボット調査技術等で、新規受託を伸ばしている。
	原価管理を適切に実施しているか	毎月開催する定例会において、各事業所の進捗状況を共有し、予実管理を実施している。なお、原価低減の取組みとして、電力調達に価格競争を導入し、大幅な電力料金の低減を実現している。 また、継続して内製化による収益改善に努めるほか、監視業務の効率化・省人化を見据えた遠隔監視システムの導入に着手している。
	業務効率化に必要となる契約交渉を発注者（行政側出資団体）と継続的に実施しているか	業務分担や費用負担の見直し等、事業運営の過程で生じた課題を整理し、今期協議することとしている。
維持運営	日頃のメンテナンスの効率化に ICT 等を活用して推進しているか	点検帳票のタブレット化の進捗は 100%となっているが、多機能化した新バージョンへの移行を進めている。なお、東部地域は 80%完了し、西部地域はこれから取組む。設備管理システムとの連携により、アセットマネジメントの基礎となるマイクロマネジメントの充実化を促進する。収集したデータの活用については、共同研究で検討されている。

	修繕の適切な実施とこれによる機器の延命化が図られているか	修繕計画に基づき適切な修繕を実施している。加えて、7月豪雨災害により水没した本郷取水場において、各業者との災害時の応援協定に基づき、ライフラインが早急に復旧された。
	作業手順書によるノウハウの共有、手順書の更新は継続的に実施されているか	各事業所のマニュアルは、ヒアリハット発生時などに適時新規作成及び更新しながら全社で共有し続けている。 動画マニュアルでは、安全帯の着用マニュアルを作成されている。
	運転条件の確認と適切な運転が実現されているか	発注者（行政側出資団体）のモニタリング結果においても、7月豪雨災害の影響はあったが適切な管理を実施していると評価されている。
リスクマネジメント	確実な運転管理の実施を通じて異常の早期検知ができていますか	毎正時の計測値のチェック及び作業後の確実な計測値の確認を通じて、計器の異常や漏水の早期発見ができています。 また、異常兆候のある機器は、引継ぎ時に共有し注意喚起を行っている。
	毎日の水質試験を技術者が確認することで確実な水質管理ができていますか	毎正時の計測値のチェック及び作業後の確実な計測値の確認を通じて、計器の異常や漏水の早期発見ができています。 また、異常兆候のある機器は、引継ぎ時に共有し注意喚起を行っている。
	管路異常の事前検知を目的としたパトロールを含め管路事故への対応体制はできていますか	管路パトロールならびに管路事故への対応体制は、継続して維持している。 例えば、定期点検により、ピンホールによる漏水箇所とパッキンの経年劣化を発見し、修繕対応を行っている。
	災害対応・非常時対応は計画的に準備されているか	平成30年7月豪雨災害時において、東日本震災の経験を活かした初動を実行できている。ただし、食料備蓄等の一部に課題は残しており、改善を図っている。 加えて、BCPに則り、白ヶ瀬浄水場において参集訓練を実施した。また、安否確認システムは導入済みで、運用訓練も行っている。
	浄水場外、水源等のチェックをする体制を取っていますか	水質情報管理システムの稼働が開始し、水源水質データを閲覧可能とし、チェック体制も継続している。
	連携	地元企業との連携を図っているか
	地元への雇用貢献に具体的に取組んでいるか	今期は、高卒新卒3名、中途10名以上採用している。

	対受水団体、周辺自治体との関係構築は進めているか	豪雨災害において、B市に設置された緊急水処理設備の保守点検を約3ヶ月間無償で実施している。 その他、C市において、管路の充水作業の応援を行っている。その他3市市に対して、応援給水も実施している。うち2市からは、感謝状を受領している。
	専門的な企業との連携等により業務の幅を広げているか	未利用エネルギーの活用を目指し、小水力発電関連の企業との連携を進めている。
	発注者（行政側出資団体）との連携を十分にとれているか。	これまでの関係を継続している。例えば、豪雨災害においては、両出資団体と連携して迅速な復旧作業を実施している。
	民間側出資団体との連携を中長期的な視点から進めているか	
発信	水みらい広島の信頼の実現のためのPRを実施しているか	小学生の浄水場見学に継続して対応している。水みらいカップ少年野球大会も4回目の実施となった。また、尾道市における水道フェスタにも参加している。広島市における河川清掃活動にも参加している。
	ネットメディアを利用した情報公開を積極的に実施しているか	ネットメディアを利用した情報公開は検討できていない。
	地元活動を着実に実施することで成果を上げているか	小学生の浄水場見学に継続して対応している。水みらいカップ少年野球大会も4回目の実施となった。 また、尾道市における水道フェスタにも参加している。広島市における河川清掃活動にも参加している。
	業界向け広報を着実に実施し成果につなげているか	継続して視察や講演依頼に応じており、業界内への広報を着実に実施している。
人材	採用の工夫を行い適切な職場環境の構築に務めているか	中途採用試験において、独自に作成した筆記試験を追加し、採用、教育、配置の面での底上げが図られている。また、大手転職サイトを活用し、広く人材を募集している。
	職員の待遇が成果や能力に対して公平に定められているか	人事制度を改訂し、待遇改善を図っている（役職手当、転勤手当、年末年始手当他）。
	教育研修を確実に実施し成果をあげているか	日常業務を遂行するための教育は順調であるが、スキル向上や公的資格取得等の教育は不十分である。
	目標管理制度を適切に活用することで業務効率を高めているか	MBOを継続しているが、今後も運用状況を見ながら、改善を図る必要がある。

	<p>国際展開までできるような創意工夫のできる人材を育成しているか</p>	<p>ベトナム人1名及びミャンマー人2名を採用している。</p>
	<p>受託業務や受託先を増やせるような営業力のある人材の育成を図っているか</p>	<p>技術開発部及び事業推進部に各1名を採用または異動させ育成中であるが、両部ともマンパワー増強が必要な状況である。</p>